

国際関連情報 IFRS 財団及び IASB 情報

IASB の動向
(2019年11月～2020年1月)ASBJ 専門研究員 くわた たかし
桑田 高志

I. 公開草案等の公表

1. IASB が比較可能な利益小計を要求し「非 GAAP」指標の透明性を高めることを提案 (2019年12月17日)

国際会計基準審議会 (IASB) は、情報が財務諸表において伝達される方法の改善案を、財務業績に焦点を当てて提案した。投資家の要望に対応して、この提案は、純損益計算書における比較可能性のより高い情報と、経営者の定義した業績指標 (「非 GAAP」指標) の報告に対する規律と透明性をより高めたアプローチを要求することになる。

IASB は、これらの提案を基本財務諸表プロジェクト及びより幅広い「財務報告におけるコミュニケーションの改善」に関する作業の一環として開発した。この提案は、下記の3つの主要なトピックを扱っている。

純損益計算書における新たな小計

企業は、「営業損益」を含む3つの新たな利益小計の提供を要求される。営業損益は企業によって一般的に報告されているが、現在は IFRS 基準で定義されておらず、企業間での意味のある比較が困難になっている。新たな小計は、より適切な構造を情報に与え、投資家が企

業を比較できるようになる。

「非 GAAP」指標の透明性

企業は、経営者業績指標 (収益及び費用の小計のうち IFRS 基準で定められていないもの) の開示を財務諸表の単一の注記において要求される。この注記において、企業は当該指標が有用な情報を提供するという理由と当該指標の計算方法を説明し、IFRS 基準で定めている最も比較可能な利益小計との調整表を示すことを要求される。これらの要求事項は、「非 GAAP」指標の使用に対して大いに必要とされていた透明性と規律を加えることになり、投資家が自らの分析を行うために必要な情報を見つけることが容易になる。

情報の分解の改善

投資家が、企業の報告した情報を解きほぐすことが困難とを感じる場合がある。なぜならば、項目が不十分な名称や説明で一括されている場合があるためである。したがって、IASB は、企業が情報を投資家にとって最も有用な方法で分解することに役立つ新たなガイダンスを提案した。企業は営業費用のより良い分析を提供すること、及び、IASB の「通例でない (unusual)」の定義を用いて、通例でない収益又は費用を識別して注記において説明することも要求

される。これらの要求事項は、投資家が企業の利益を分析し将来のキャッシュ・フローを予測する助けとなるであろう。

IASB のハンス・フーガーホスト議長は、「これらの提案は、財務諸表の比較可能性と有用性における大変革となるものである」と述べた。この提案は、すべての企業について目的適合性のある一般的な表示及び開示の要求事項を示す新たな IFRS 基準となり、IAS 第 1 号「財務諸表の表示」を置き換えるものとなる。IASB は、いくつかの他の IFRS 基準の修正も提案している。本修正案について、2020 年 6 月 30 日まで利害関係者のコメントを求めている。

2. IASB による負債の流動又は非流動への分類に関する要求事項の明確化 (2020 年 1 月 23 日)

IASB は、IAS 第 1 号「財務諸表の表示」の狭い範囲の修正を公表した。債務及び他の負債を、流動又は非流動にどのように分類するのかを明確化するものである。

この修正は、財政状態計算書において、決済日が不確定な債務及び他の負債を流動（1 年以内に決済期限が到来するか又はその可能性がある。）又は非流動のいずれに分類すべきかを企業が決定する助けとなることによって、要求事項の適用における首尾一貫性を増進することを目的としている。この修正には、企業が資本への転換によって決済する可能性のある債務についての分類の要求事項の明確化が含まれている。

この修正は、既存の要求事項を変更するのではなく明確化するものであるため、企業の財務諸表に大きく影響を与えるとは予想されない。しかし、企業が一部の負債の分類を流動から非流動に変更することやその逆の結果を生じさせる可能性があり、企業の融資契約における財務

制限条項に影響を与える可能性がある。したがって、この修正に備えるための時間を企業に与えるため、IASB は発効日を 2022 年 1 月 1 日以後開始する事業年度に設定した。この修正の早期適用は認められる。

II. その他の IFRS 財団関連のプレスリリース

1. IFRS 財団の評議員会が IFRS 諮問会議の新しいメンバーを任命 (2019 年 11 月 28 日)

IASB の監督とガバナンスを担う IFRS 財団の評議員会は、IFRS 諮問会議へ新たな 6 の組織の新任と 12 の組織の再任を公表した。それぞれの任期は、2020 年 1 月 1 日から 3 年間である。

IFRS 諮問会議は、戦略的及び技術的事項について IFRS 財団の評議員会及び IASB に助言する。学者、アナリスト、監査人、投資家、作成者、専門会計機関、規制当局、基準設定主体など、国際財務報告の影響を受け、関心を持っている 40 以上のグループの代表者で構成される。IFRS 諮問会議のメンバーシップは、個々の代表者ではなく、関係する組織によって保持される。

IFRS 諮問会議に新たに任命された組織及び氏名

組織	氏名
Bayer	Martin Schloemer 氏
Eumedion	Martijn Bos 氏
日本公認会計士協会	関根 愛子氏
Malaysian Accounting Standards Board (MASB)	Bee Leng Tan 氏
S&P Global Ratings	Osman Sattar 氏
Xiamen University	Feng Liu 氏

IFRS 諮問会議のメンバーである前任及び既存の組織の代表者として新規で任命された個人

組 織	氏 名
BDO	Ehud (Udi) Greenberg 氏
Corporate Reporting Users' Forum	Greig Paterson 氏
European Central Bank	David Grünberger 氏
Insurance Europe (European Insurance and Reinsurance Federation)	Anna Vidal Tuneu 氏
International Actuarial Association	Andrew Chamberlain 氏
International Association for Accounting Education and Research (IAAER)	Leslie Hodder 氏
International Association of Insurance Supervisors (IAIS)	Romain Paserot 氏
European Securities and Markets Authority (ESMA, 再任)	Isabelle Grauer-Gaynor 氏
The Investment Association (再任)	Emma Millar 氏

Carolyn Rogers 氏は、バーゼル銀行監督委員会の事務局長として William Coen 氏の後任となり、8 月から IFRS 諮問会議において組織を代表している。

IFRS 諮問会議の既存メンバーの再任

組 織	氏 名
Acteo and Medef	Olivia Larmaraud 氏
CFA Institute	Giuseppe Balocchi 氏
EY	James Luke 氏

次の代表者は、2019 年 12 月 31 日に IFRS 諮問会議メンバーを退任する。

組 織	氏 名
BDO	Jens Freiberg 氏
Comisión Nacional Bancaria y de Valores (CNBV)	Laura Ramírez 氏
Corporate Reporting Users' Forum (CRUF)	Lothar Weniger 氏
European Central Bank (ECB)	Jurgen Kirchhof 氏
Individual	Surya Subramanian 氏
Indonesian Financial Services Authority	Etty Wulandari 氏
Insurance Europe (European Insurance and Reinsurance Federation)	Olav Jones 氏
International Actuarial Association	Micheline Dionne 氏
International Association for Accounting Education and Research (IAAER)	Holger Daske 氏
International Association of Insurance Supervisors (IAIS)	Abdulrahman Fahd Almosad 氏
Korea Accounting Standards Board	Jee In Jang 氏
日本経済団体連合会	石原 秀威氏
Shanghai University of Finance and Economics	Xinyuan Chen 氏
Wipro Ltd	Suresh Senapaty 氏

Joanna Perry 氏は、2019 年の終わりに IFRS 諮問会議の委員長としての任期を完了する。欧州委員会、日本の金融庁、米国証券取引委員会は、IFRS 諮問会議にオブザーバーとして出席する。

2. IFRS 財団が3名の新たな評議員を選任 (2019年11月7日)

IFRS 財団は、新たな3名の評議員を任命するとともに、現任の3名の評議員を再任した。

IFRS 財団評議員会は、IFRS 基準を設定するIASBのガバナンス及び監督機関である。次の3名の評議員は、2020年1月1日から3年間の任期として任命された。

氏名	経歴	枠	前任者
Alexsandro Broedel 氏	ラテン・アメリカ最大の民間金融機関であるブラジルの Itau Unibanco のグループ・エグゼクティブ・ファイナンスディレクター兼 IR 責任者	米国	Maria Helena Santana 氏
Joanna Perry 氏	ニュージーランドの公的及び民間組織のさまざまな上級非執行役及び IFRS 諮問会議の議長	アジア・オセアニア	Lynn Wood 氏
Maria Theofilaktidis 氏	カナダ最大の多国籍銀行の1つである Nova Scotia 銀行 (Scotiabank) のエグゼクティブ・バイスプレジデント、コンプライアンス責任者、企業リスク責任者	米国	Sheila Fraser 氏

Else Bos 氏、Su-Keun Kwak 氏及び Guangyao Zhu 氏は第2期となる2020年1月1日から3年間について再任された。

評議員の任命は、IFRS 財団の公益の監視を強化する資本市場当局のグループである IFRS 財団モニタリング・ボードによって承認されている。

Ⅲ. IASB 会議、IFRS 解釈指針委員会会議

IASB の会議は、ロンドンの IASB 本部で以下のとおり開催された。

- 通常会議 (2019年11月19日及び20日)
- 通常会議 (2019年12月11日及び12日)
- 通常会議 (2020年1月28日から30日)

また、IFRS 解釈指針委員会の会議は、2019年11月26日及び2020年1月21日にロンドンの IASB 本部で開催された (詳細については、本誌110頁の「2019年11月及び2020年1月

の IFRS-IC 会議における議論の状況」及び本誌114頁の「IFRS-IC 会議 (2019年11月及び2020年1月) 出席報告」を参照いただきたい。

Ⅳ. その他の IASB 関連会議

- 2019年12月2日から4日 新興経済グループ (EEG) 会議 (廈門)
- 2019年12月13日 「経営者による説明」の協議グループ会議 (ロンドン)
- 2019年12月16日 IFRS 財団の評議委員会のデュー・プロセス監督委員会 (DPOC) 会議 (テレビ会議)
- 2019年12月17日 会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) 会議 (ロンドン) (詳細については、本誌73頁の「2019年12月開催 ASAF 会議報告」を参照いただきたい。)